



**2006年度第1四半期(FY06/Q1)
連結決算説明資料
〔米国会計基準〕**

2006年7月27日

日本電産株式会社
www.nidec.co.jp/

2006年度 第1四半期(FY06Q1) 連結決算説明資料
〔米国会計基準〕

第1四半期決算のポイント(前年同期比)

- 全ての事業区分の売上高・営業利益が増加し、営業利益率も改善
- 「精密小型モータ」は過去最高の売上を計上し、全体業績を牽引
- 「中型モータ」は営業黒字へ転換
- 「機器装置」は産業用ロボット等が好調で39%増収、160%増益

—注意事項—

本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績、及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。

2006年7月27日

 日本電産株式会社

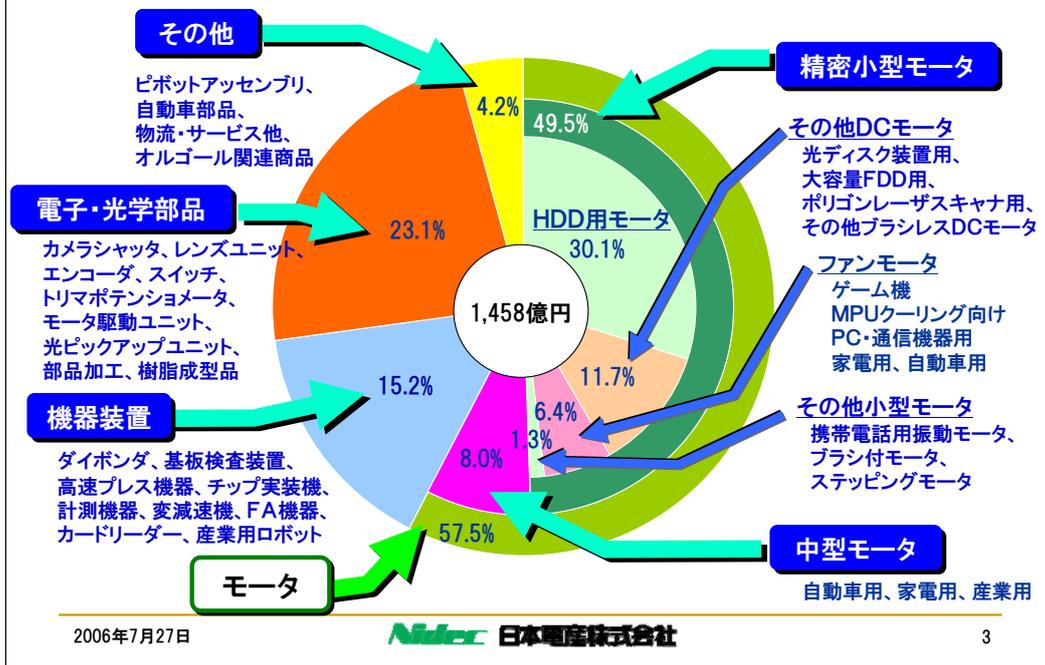
2

第1四半期決算のポイント

平成18年度(2006年度)の第1四半期(以下当期1Qという)は、コアビジネスであるHDD用モータをはじめとする精密小型モータ市場が前年度に引き続き堅調に推移いたしました。また、前年度に業績が停滞したグループ会社の中型モータ、機器装置、電子・光学部品などの各事業とも総じて順調に業績の改善が進みました。この結果、売上高は全事業分野に亘って、前年同期比二桁増を達成し、連結全体では前年同期比で19%の増収、57%の営業増益となりました。

これらの内容について次ページ以降で説明いたします。

事業別売上構成(FY06/Q1)



事業別売上構成(FY06/Q1)

「精密小型モーター」及び「中型モーター」で構成するモーター事業は、全ての事業売上高の約58%を構成しています。また「機器装置」及び「電子・光学部品」、「その他」事業の売上構成はそれぞれ約15%、23%、4%となりました。

損益計算書(前年同期比較)

(単位:百万円)	Q1/FY05	Q1/FY06	増減	FY06見込
売上高	122,499	145,819	+19.0%	580,000
営業利益 (営業利益率)	9,602 (7.8%)	15,034 (10.3%)	+56.6%	65,000 (11.2%)
税引前利益	11,959	14,028	+17.3%	65,000
当期利益	8,794	8,849	+0.6%	40,000
一株利益(円)	61.59*	61.19	-0.6%	276.59
対米 ^{ドル} 為替レート				
平均…	107.69円	114.50円	+6.3%	
期末…	110.62円	115.24円	+4.2%	115.00円

*2005年11月18日付けで普通株式1株に2株の割合で株式分割を行っており、分割後の株数ベースに調整しております。

2006年7月27日

 日本電産株式会社

4

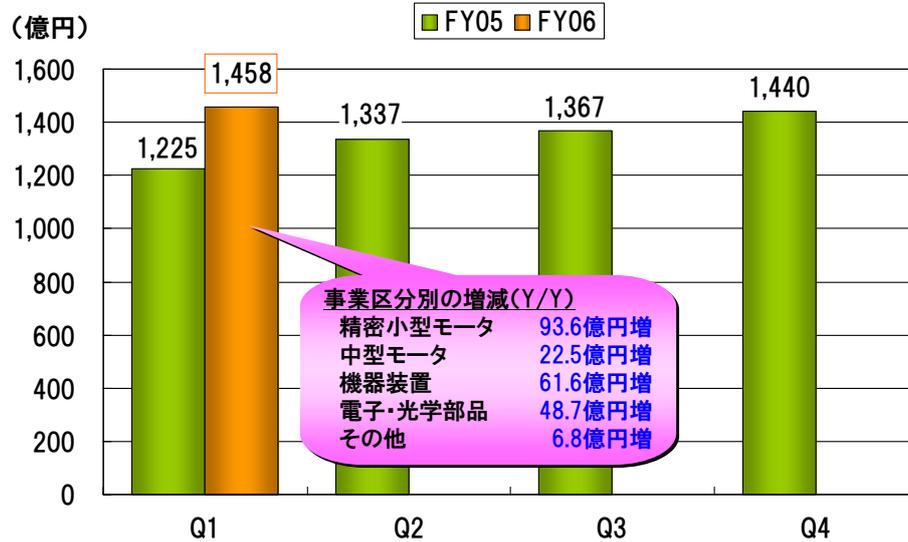
損益計算書(前年同期比較)

当期1Qの売上高は1458億19百万円と四半期としては過去最高の売上高となりました。また、営業利益は150億34百万円と全ての事業分野において前年同期比増益となりました。当期1Qの営業利益率は10.3%ですが、第1四半期から営業利益率が10%超となったのは当年度が初めてであります。

当社は2005年9月30日現在の株主に対し、2005年11月18日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。そのため前年第1四半期の1株当たり四半期純利益、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、この株式分割を反映し修正再表示しております。修正再表示前の前年第1四半期の1株当たり四半期純利益、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益はそれぞれ123.18円、118.33円であります。

2006年度連結業績の中間期及び通期の見込については2006年4月25日に開示致しました内容を変更致しておりません。

売上高の推移(四半期別)



2006年7月27日

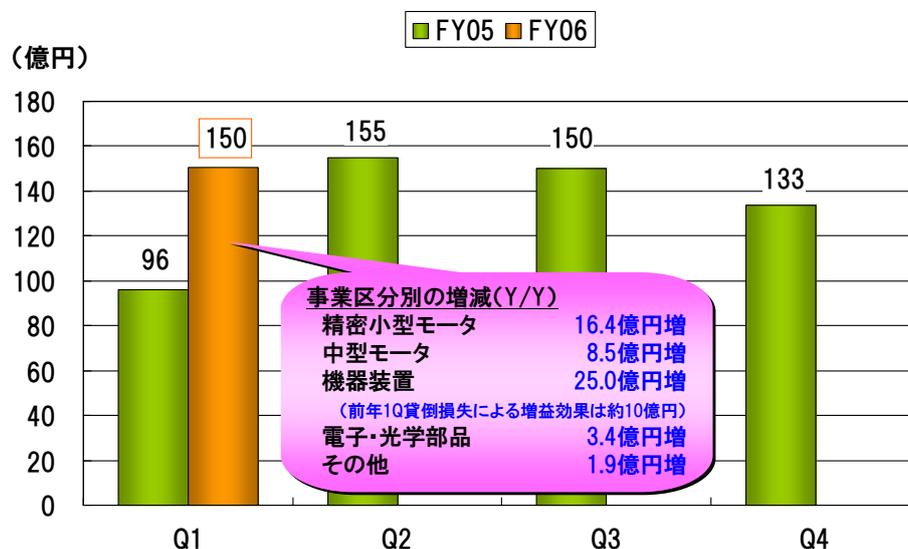
Nidec 日本電産株式会社

5

売上高の推移(四半期別)

当期1Qの売上高は1458億19百万円となり前年同期比約233億円の増加(19.0%増)となりました。

営業利益の推移(四半期別)



2006年7月27日

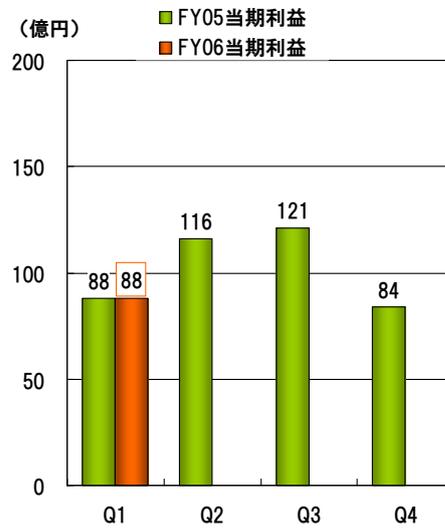
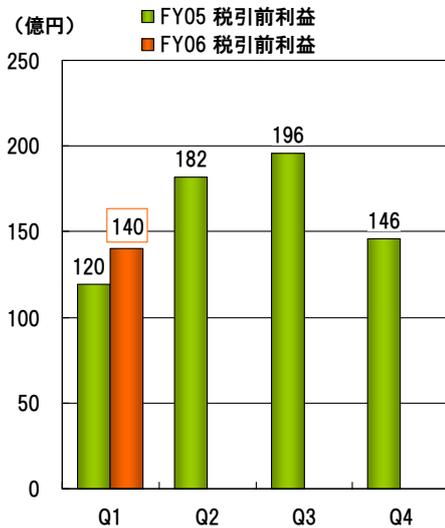
日本電産株式会社

6

営業利益の推移(四半期別)

営業利益は150億34百万円と前年同期比約54億円の増加(56.6%増)となりました。なお前期1Qに含まれる特殊要因としてはアグファフォト社倒産に伴う貸倒損失が10億円強営業利益より控除されておりました。

税引前利益と当期利益の推移(四半期別)



2006年7月27日

 日本電産株式会社

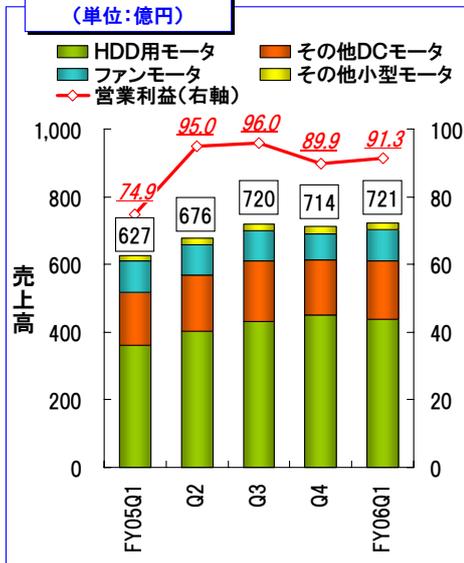
7

税引前利益と当期利益の推移(四半期別)

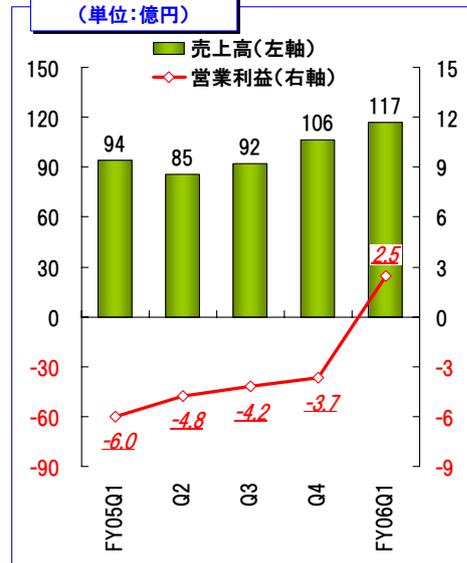
税金等調整前利益は140億28百万円と前年同期比約21億円の増益であります。
また当期純利益は88億49百万円で前年同期比約55百万円の増益となりました。

事業区分別情報<精密小型モータ、中型モータ>

精密小型モータ
(単位:億円)



中型モータ
(単位:億円)



2006年7月27日

Nidec 日本電産株式会社

8

事業区分別情報<精密小型モータ、中型モータ>

「精密小型モータ」事業の売上高は721億01百万円となり前年同期比で約94億円(14.9%)の増加となっております。

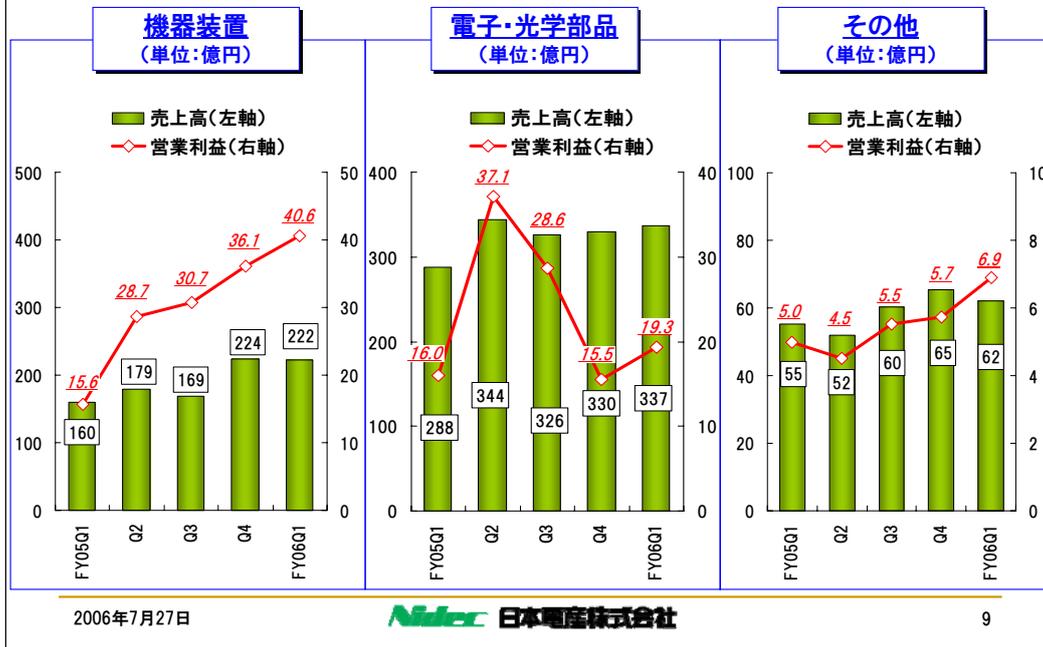
「精密小型モータ」事業の当期1Qの営業利益は91億30百万円となり前年同期比16億円超の増益であります。営業利益率は約12.7%と前年同期比0.7%改善の水準を確保いたしました。但し、1インチを中心としたマイクロドライブが売上高・数量でも半減したことによるマイナス要因を考慮すれば、実質的収益性の改善は更に大きかったと考えられます。

「精密小型モータ」の内容については10~12ページで説明いたします。

「中型モータ」事業の売上高は116億72百万円と前年同期比約23億円(約24%)の増加と最近では相当に高い増収率となりました。これは車載用モータの拡大に加え、家電用・産業用モータともに増収となった結果であります。特に家電用ではエアコン用モータの出荷が好調でありました。

「中型モータ」事業の当期1Qは黒字化を達成すると共に約2.5億円の営業利益を計上しました。前年同期からは約8.5億円の増益であります。この分野では家電用、産業用共に前年度の収益悪化要因であった素材等のコストアップの吸収努力、中国への海外生産移転による合理化効果の実現が実を結びつつあります。また、季節商品でありますエアコン用モータの好調もあり上述のとおり営業利益を計上するまでに改善いたしました。

事業区分別情報<機器装置,電子・光学部品,その他>



2006年7月27日

Nidec 日本電産株式会社

9

事業区分別情報<機器装置、電子・光学部品、その他>

「機器装置」事業の売上高は221億66百万円で前年同期比約62億円(約39%)の増加であります。この分野では、日本電産サンキョーの液晶ガラス基板搬送ロボットの出荷が好調を持続すると共に、旺盛な設備投資需要を背景に、日本電産リード・日本電産キョーリ・日本電産シンポなど各社の販売が共に拡大しております。また前年度停滞しておりました日本電産コパル並びに日本電産トーソクの半導体関連設備や精密計測機器等の販売も回復に向かいつつあり、増収となっております。

「機器装置」では40億59百万円の営業利益で前年同期比約25億円の増益となりました。前年同期には上述しました日本電産コパルのアグファ社向け貸倒損失約10億円が含まれている為、事業拡大に伴う増益は約15億円となります。増益の中心は日本電産サンキョーのロボット事業やカードリーダー事業による増益であります。日本電産リード、日本電産シンポ、日本電産キョーリなどの販売拡大に伴う利益増も寄与いたしました。

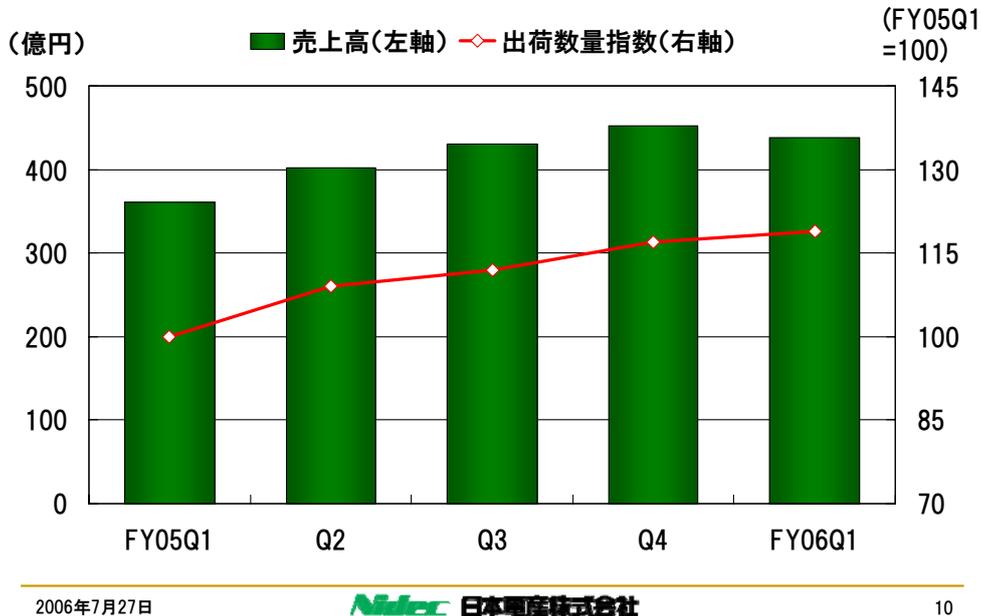
「電子・光学部品」事業は売上高336億79百万円で前年同期比約49億円(約17%)の増収であります。この分野では日本電産コパルのシャッター、レンズユニット、バックライトなどが約62%の増加、更に日本電産コパル電子の各種電子部品が約7%の増加など販売拡大が顕著であります。日本電産サンキョーの光ピックアップは前年同期比約4%の販売減少となっております。

「電子・光学部品」は19億30百万円の営業利益を計上し、前年同期比3億円強の増益となりました。主たる増益要因は日本電産コパルのシャッター、レンズユニット、バックライト等が前年同期の市場の在庫調整に伴う売上減少に対して、当期1Qは反転しての需要増加に伴う販売増の効果が大きく貢献しました。また、日本電産コパルにおけるレンズユニット新製品の歩留改善も収益改善に貢献しています。一方、日本電産サンキョーの光ピックアップの歩留も大幅な改善となり、これも当期利益増の要素となりました。

「その他」事業の売上高は62億01百万円で約7億円(約12%)の増加であります。シンガポール日本電産が生産販売するHDD用部品のピボットアセンブリが好調で、前年同期比約4.5億円(約70%)増となっております。この分野の売上の約70%を占める日本電産トーソクの自動車部品販売は、主要客先の需要停滞もあり若干の販売増に止まりました。

「その他」の事業の営業利益は6億89百万円で、前年同期比約2億円の改善となっております。

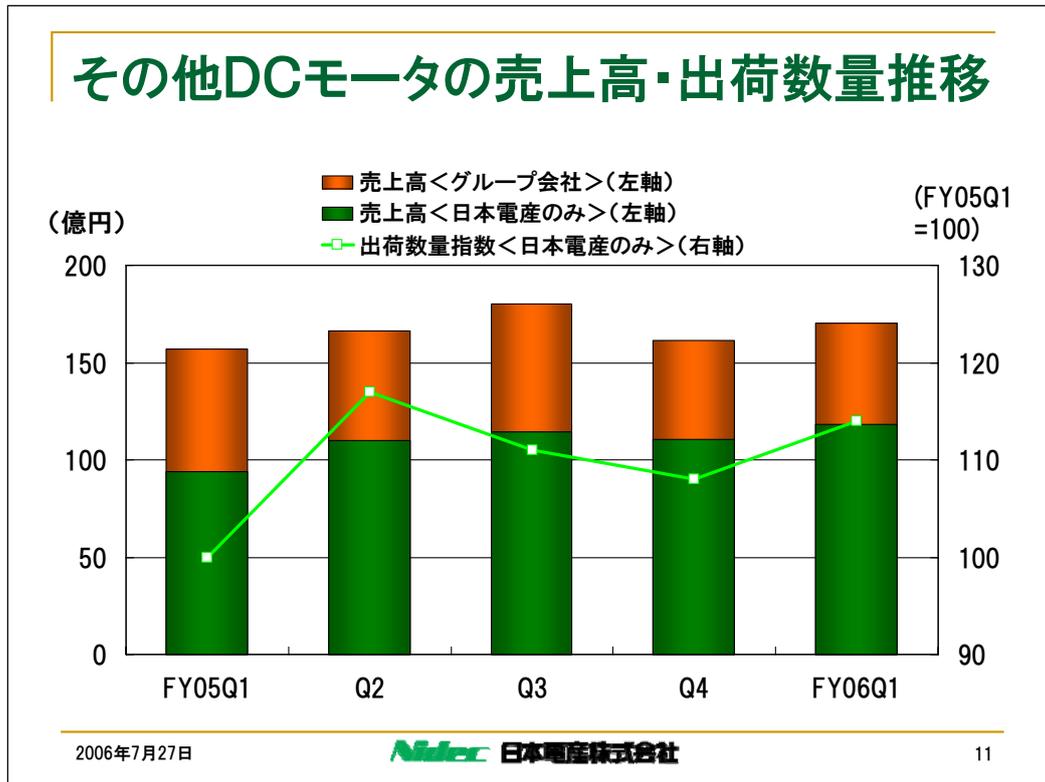
HDD用モータの売上高・出荷数量推移



HDD用モータの売上高・出荷数量推移

HDD用モータは前年度後半の高水準の需要が継続し、前年同期比、販売数量で19%、販売金額でも約22%の大幅な増収となりました。販売価格も円ベースで2%強の上昇となっています。但し、前年同期比で約6%の円安の影響が含まれていますので、ドルベースでは4%弱程度の低下に相当いたします。当期1Qは前年度の2.5インチの大幅な増加率が続いており、円安もあって円ベースでの平均売価は上昇しましたが、ドルベースでは1.8インチ以下の販売価格の下落と3.5インチの価格が軟化したことが上述の価格下落の要因と見られます。

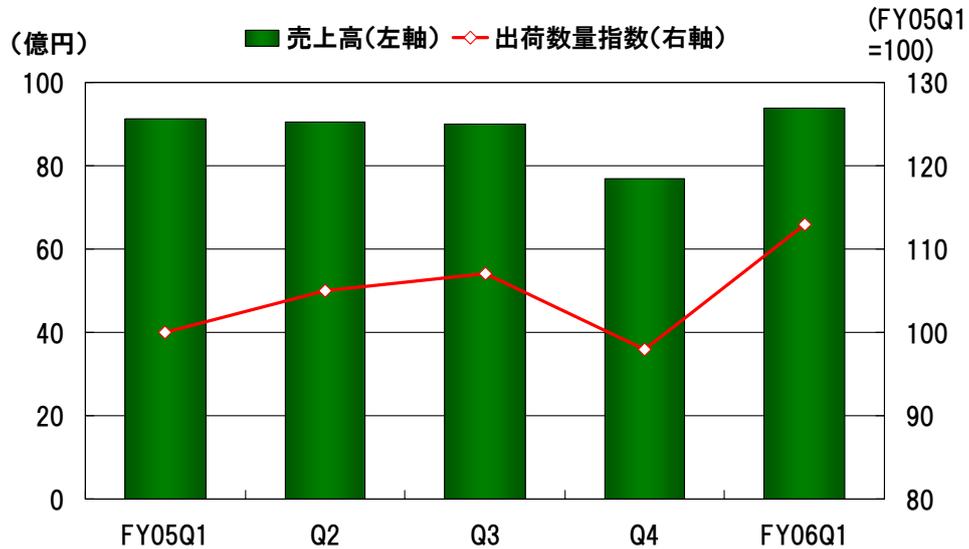
その他DCモータの売上高・出荷数量推移



その他DCモータの売上高・出荷数量推移

その他のDCモータの売上高は前年同期比8.5%の増加であります。伸び率が一桁になっているのは、約1/3を占める日本電産サンキョーのブラシレスDCモータの減少等グループ会社の販売分が約17%程度減少している結果であります。従来の日本電産分のみのブラシレスDCモータは前年同期比売上金額で25%超、数量でも14%超という高い成長を続けております。

ファンモータの売上高・出荷数量推移



2006年7月27日

Nidec 日本電産株式会社

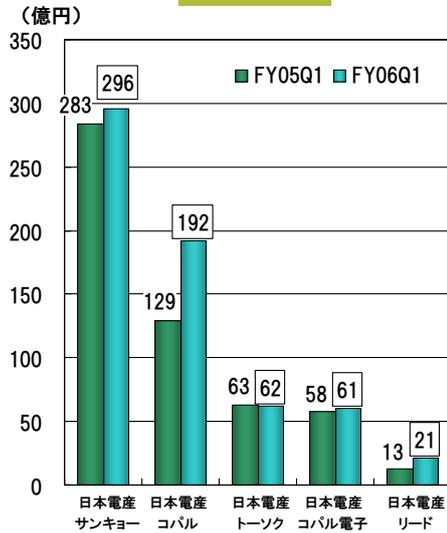
12

ファンモータの売上高・出荷数量推移

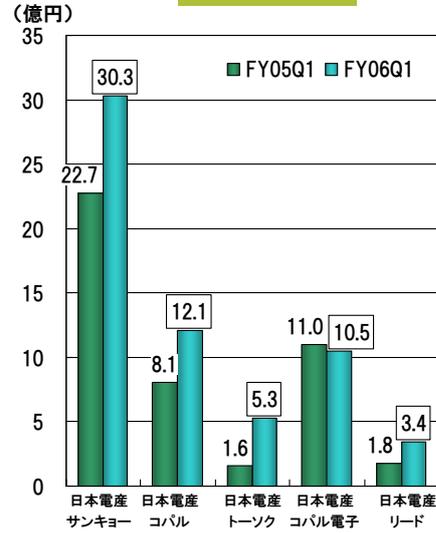
ファンモータでは売上高が前年同期比3%の増加に止まりましたが、数量的には約13%増と順調に拡大いたしました。

<参考> 上場グループ企業の業績推移

連結売上高



連結営業利益



*上記は国内会計基準に基づいて発表された業績数値です。

2006年7月27日

Nidec 日本電産株式会社

13

<参考> 上場グループ企業の業績推移

上場グループ企業5社(日本電産サンキョー、日本電産コバル、日本電産トーソク、日本電産コバル電子、日本電産リード)の当期1Q実績は、各企業とも売上高・営業利益を拡大いたしました。